

議でお知らせ、中学生の皆様にも意見を頂いているので、こども議会冒頭、報告したい。

◆ 今後は、令和10年度に補助金などの財源めどがついた段階で再開を検討することになっているが、小中一貫校整備後の財政状況によっては業務を再開できない可能性もあり、今後の予定は令和10年度に業務再開を検討。再開する場合、令和11年度、再度、基本計画の策定を開始、令和14年度工事着工、令和16年度併用開始予定している。

◆ 答申時に付された要望を反映するとともに、再度、町民のご意見を聞き、創生会議の諮問も考えている、**質問**◆ 子供たちの要望、憩いの場、大人との振れ合いの場所をどのように認識しているのか、町長、教育長に伺います。

◆ **町長** コミュニティ場所は必要。多世代の交流ができる施設は必要不可欠だと思っている。

◆ **教育長** 異世代交流は非常に大切ととらえている。学

校整備も同様なこととも考えている。



斎賀 弘孝

・ふるさと同窓会を活用した関係人口創出事業の継続と開発戦略について

◆ **質問** 5月に開催された「といかん・ふるさと同窓会三札幌」には約90名が参加され、大変好評だった。町長は参加してどのような感想を持ったのか。また、問寒別地区だけでなく、幌延地区などでも同様の同窓会を開催し、町を応援してくる関係人口づくりにつ

なげていく考えはあるのか。**町長** 懐かしい写真や動画、校歌などを通じて、参加者がふるさととの雰囲気を感じることができ、まさに同窓会と呼べるイベントであったと感じている。参加者の7、8割が問寒別地区の出

身者や居住経験者、その親族であり、地域とのつながりを深める機会となった。今後、他地域で展開する場合には、地域づくりの目

的や意義を明確にし、継続して活動できる組織や担い手づくりが重要である。行政が主体となるのではなく、地域の方々が中心となって取り組める体制づくりを支援していきたい。



といかん・ふるさと同窓会 in 札幌

◆ **質問** 国では「ふるさと住民登録制度」の取組が進められている。本町はモデル事業へ応募していないが、

制度への参加や今後の準備についてどのように考えているのか。

◆ **町長** 現在、国では制度構築やアプリ開発に向けた検討が進められており、モデル事業を通じて内容の検証が行われている。本町としては、国の動向や検証結果を注視しながら、本町にとっての活用意義や目的を見極め、制度への参加を検討していく。また、制度への参加に関わらず、地域で必要としている担い手や、関係人口との関わりを深める方法について検討を進めていく。

◆ **質問** 町公式LINEについて、現在は登録者も少なく、情報発信や住民との双方向の交流を進めるには改善が必要と考える。利用しやすいメニュー設定や情報収集機能の導入を進める考えはあるのか。

◆ **町長** LINEは有効な情報発信手段であると認識している。一方、双方向のやり取りを行うためには、寄せられた情報への対応体制も必要。まずは基本的な情

報発信から進めながら、必要な機能や運用方法について調査・検討していく。◆ 今後、LINEなどのSNSを活用し、町民だけでなく、町出身者や町を応援していただける方々とのつながりを広げ、関係人口の創出につなげていきたい。

町では、地域の皆さんや幌延を訪れる方に、町の魅力を再発見してもらうきっかけづくりとして、LINEで地域のステキな幌延投稿を募集しています。

お気に入りの風景や場所、日常のひとコマなど、身近な幌延の魅力を投稿していただき、町公式 SNS などで発信しています。



LINE (ライン) QRコード